

**GLASS
COLUMN**

業務用食器洗浄機でガラス食器を洗う際の上手な使い方

食器洗浄機は大変便利な道具ですが、洗浄力の強いアルカリ性洗剤を使用しています。

正しくない使い方をすると、ガラスに付いた汚れが十分に落ちず、汚れに付着したアルカリ分によってガラス表面が浸食されます。これがくもりの原因となります。目で見えるほどになった、ガラス表面のくもりは取り除く事ができませんので、洗浄機を上手に使って「よく洗い、よくすすいで」くもりの発生を予防してください。

金・プラチナプリント加工やラスター加工のガラスは繊細なため、洗浄機のご使用は出来ません。

**1 ひどい汚れは洗浄機にかける前に
汚れを落としてください。**

洗浄液は基本的に繰り返し使いますので、食器がひどく汚れている、食べ残し等が残っていると、洗浄液が汚れてしまい、十分に洗浄する事ができません。ガラスに汚れが残っているとアルカリ性の洗剤がすすいでも残りやすくなります。



3 よくすすいでください。

洗剤のアルカリ分を残さない為に、ガラス食器をすすぐ場合は他の食器より洗浄機のすすぎ時間を長めに設定してください。特にワインなどのステムグラス、凹凸があるデザインのグラスは、形状が単純なストレートのタンブラー等より、洗剤が表面に残りやすい傾向がありますのでご注意ください。



**5 グラスは冷ましてから
お使いください。**

洗浄したすぐ後のグラスが熱い状態での使用は避けください。温められたグラスと氷などによって、急激な温度変化(特に急冷)がおこり、割れることがあります。グラスは室温まで下がってからご使用ください。

**7 食器洗浄機は定期的に
整備してお使いください。**

洗浄液やすすぎの水を噴射するノズルが詰まっていると、十分に洗浄が出来ずくもりの原因になります。

**2 ガラス食器に合った
ラックをお使いください。**

仕切り寸法が入れるグラスに比べて小さくきつすぎると、ラックの仕切りに洗浄が邪魔されてしまい、十分な洗浄が出来ずに汚れが残ってしまいます。また仕切りが大きすぎたり、万能ラックといわれるタイプは洗浄中にグラスが倒れる等、破損の危険がありますので食器のサイズに合ったラックをご使用ください。



4 リンス剤を使用してください。

ガラス表面にすすぎの水を残さないように、リンス剤をご使用ください。すすぎの水がガラス表面に残ったまま乾燥しますと、水に含まれる洗剤やミネラル等がガラス表面に残り、白っぽい水斑が残ってしまいます。また底部には水が溜まりやすいので、乾燥前に拭き取るか、ななめにしておき水を除いてください。

**6 タオル等で磨く場合は、
きれいなタオルをご使用ください。**

タオルで磨きあげるタオリングを行う場合は、タオルを適時、洗濯した物と交換してください。濡れたタオルをそのまま乾かして再使用すると洗剤や汚れを塗り付ける事になりますのでご注意ください。

**GLASS
COLUMN**

家庭用食器洗い乾燥機でガラス食器を洗う際の上手な使い方

1 取り扱い説明書をよくご覧ください。

メーカーや機種によって取り扱い方法が異なりますので、機具の取り扱い説明書をよくご覧いただき、不明な点はメーカーの相談窓口にお問い合わせください。

**3 クリスタル製品のご使用は
お勧め出来ません。**

デリケートなクリスタルガラスは、洗浄機の温度変化による熱衝撃やアルカリ洗剤による浸食のため、グラスが破損したり白くもる場合があります。機具メーカーが使用をお勧めしている機種以外は、ご使用をお勧めしません。

*ファインクリスタル製品は、当社独自の技術により家庭用食器洗い乾燥機でお使いいただけます。詳しくはP8・P9をご覧ください。

**5 金・プラチナプリント加工、
ラスター加工のグラスはご使用出来ません。**

加工部分が剥げたり、薄くなったりの場合があります。

**2 温度変化(特に急冷)が緩やかな
給湯器との接続をお勧めします。**

グラスは温度変化(特に急冷)を嫌います。給湯器と水道の接続が遅れる機種をお使いの場合は、一般的に温度変化が緩やかな給湯器との接続をお勧めします。すすぎの際に水道水を利用する場合は、温められたグラスがすすぎ水で急冷されるため、お勧めしません。

**4 傷が付いたグラスの洗浄は
お避けください。**

傷が付いたグラスは割れやすくなっていますので、洗浄時の温度変化で割れることがあります。

**6 グラスは冷ましてから
お使いください。**

洗浄したすぐ後のグラスが熱い状態での使用は避けください。温められたグラスと氷などによって、急激な温度変化(特に急冷)がおこり、割れることがあります。

